三花月記

全

六洞珍藏

伊地知文庫
文庫20
286

文庫20
286

藏書

伊地知氏書冊

主殿もしらしめしたりけるに
うち一切の義を能師匠ふかく
といひしりとの公のまゝ事
なりといふ所の歌のこゝろ
しこの心のみなとゝなりぬ
いふ心とは作りもしこ
能をうといふことなり
風体をしたしとゆ
なりとの詞なりといふ
中はまきの根もあ
如にたちうるさし
うるとのまゝ心と

こゝろ人〻といふ所歌とこゝ
見をとゝ思ふ人〻あり
歌我まもしる心地よわ
らしらず此歌の
作るものゝ
人まなあよ
辛なよ
こゝのものふ
心こゝ
人作こゝ
よしと思ふ
おのゝ歌をよまん
の心の
の
の

[illegible]

物をゝのふ書まいらはよいとて

いろはにほへとちりぬるをわかよたれそつねならむ

うゐのおくやまけふこえてあさきゆめみしゑひもせす

ゑを書い　ゑに書ひ　ゑを書わ

ゐを書く　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

ゐを書ゐ　ゐを書ゐ　ゐを書ゐ

下ゝ[illegible]ゝ　下に[illegible]志、上下ふり新　[illegible]

上下おなじ　上下うりぬ[illegible]

歌とうつす書事　[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌をよむ　[illegible]

縁の[illegible]

白對白[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]てわをいかくるとおり
とと人のあまねく知るきいふひるなんそるね
ひしの紙をうのうてどもみ出てわきそうとと
おりくとなんてさうもいかくいねふかちきるく
るひけるあきあもまこと字枕書をかける古詞日本記
風土記国々の名ものよりみはくきおうと出そうと
侍るへしいかきき紙の詞もそうし
まてかもすもけしるかるはとそいふき
見るちてみ行とうしきるの喜のよめる
詞とうしまるはるとうさうふこの
詞を宮の行心と近代の宮をとんまいはるさまそも
いとなきのうの字とそうの風俗とそるの風俗と

一

ゆるの記目とすとうとひわうとうはるもや
待をとそはの俗ものをまうわいは高弘動撰三十六人の
歌のをるうとうとそのの中に絵ていつる詞とそう
てゆきをとすうるうきるり
うるき歌はず三の句とうて今の字三の句とき
まい古き字の字三の句とうとの字の字三句とき
はるまの例のうとうはまるとおとてお歌の
なるはうとあ雪の字とうわて数の字ようるとう
しうとうを人を歌目を歌をはうるとを心をを歌て
中かとうはるうを角を花のうを月の字を
月まを字とうとうをうとうをうをうをうをの心とうて
めうりくるまの人おるうしまゆきめるゆる

とゝ文字にはなるべからず八文字詩とせんか
七字にはなるべし八七字と二句よりもとゝも詠つへくん
こと然るべきなり然れとも一句より長句にはなるべ
るべしみなもとゝ侍るかゝるべしとゝ
とてちうちうにいはくゝ
とゝふことの意をもてこゝふ地名のごとし
日本紀の名にはるゝ八隅知我大王の
歌にはるゝ見古記にはるゝ
のたらわらるゝ
ゝわのうしろの野に八のとゝ云事
とゝるゝ浦の八潮焼あり国ひろゝとゝ
せるまゝ
伝のかゝる名もみゆ

楽府部詠ゝの中ゝ詩の字ゝ
ゝ
題ゝ
題のゝ
ゝ
ゝ

いとゝ深くなりゆくこゝろいとゆたけしうきわたりて遠き懐
の景なるものなれば是のみならずして春きぬ
見かるゝ景なむ〳〵ひとつ
もてゆくこゝろすなはちこれなり
こゝろ深くなりゆくこゝろかるゝ
よりとかくこゝろ
文字のうへ作りゝ春夏秋冬をあらはす
歌のうへにもこゝろのうへにもこゝろ
こゝろ先達のなかりしてよりわれ大こゝろ
ゝ題のものをすこゝろ
すゝ三十一ゝよりみ満てゝ題よりてすこゝ
ゝもこゝろかゝりぬるもの

一

五春ゝ題ゝ
ゝこゝろ
ゝ題のもの
なゝこゝ
四季の歌ゝ
是すゝ
侍ゝ
ゝもむ
平の
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

一

[illegible]

一

[illegible]

一

歌をば題千頁百是五をのてしみ侍る（しかの中極秘と号す

ゆうてはとくと（是いかるる歌よむ人は姓影の

中とをしへ侍ふ時ふるまて我ゆゑみさる事

ふる（源氏物語ねとも其歌ふむ（みとき侍

るなりしに出てもとめてるかはいかるに

いとのこかはとも（我ものとわ（るもしあいせ事

まつ（歌なり（源氏物語ふるまて（ほりわ出す（ら

なかゆゑ（ものとい（ともねは（侍事ふ中ふるとに（ものも

屋（源氏物語をとれりてはとも（

一

歌の奥加とは（りて毎の和歌とりて二ツ三首よ

む（て人名和人のはとゆゑ（ゆうて語（るわ

題を書れ八さ（せる事の侍まと出題を数て少論

一

ところうわ（源氏物語雪をとまを紙を行のるう（にてよ（ふ二行

七字のよ書り（ふ三行をまにあもし（三行七字に書

ふ七字七と書ふ年ふ（ふ事ふ（ふ（ふ

書（（ふ名ふ源氏物語と歌の号にたるよさ（ふ云（し

ふのまふ（ふ毎ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ

なる（て頭をしして源氏（ふ（ふ（ふ（ふ

五月雨ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ

はふ月毎ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ

ものるり腰をまとる（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ

をものふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ

（（とすふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ

ずむ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ（ふ

一

[illegible]てなることうわこえたるうわかれし
世平の斉衡の比の縁のなかにて侍る歌とぞ
平さへよりてよみ侍りける
[illegible]児と女房の袖の縁のよせ
[illegible]れたるそでの[illegible]おもかき心祈
[illegible]おりてのいらかにかくれて下はおうしき姫もて
僧俗のおもむきの縁のことばを
[illegible]どもの縁のもの縁のことばを
[illegible]候名とうわ候名とうわ候名を
[illegible]
[illegible]のこと[illegible]
[illegible]
[illegible]

一

かいてくすくるるは二は歌句後句に出ていきわて腦と
屋ちくに成ると心ゆ緑のこと出と腦ゆ屋にして
るまりひとふくるよすくくくくくげこの腦をれなまも
ていおいたくにてこめくくくしいとくくにちとりてくのか
こきこをろかなりる歌もくくくわくくたくくくの分とも詠きるわ
せくとき歌六歌のくくと四とくくまきるわ
かるくくくくくくくくくくくすしきるくと句のまくおくと
いくくるの象もくくき俳名と俳句はけ出くと句の
くくと俗句後句はなくくくくの仮名すわきいくくん
くくくん句くくみくくくくくくくくくくく

かるわざとしてうるはしきをとりあつめ
しわみちぬるんぢらぬるんぢ
ゆるりとそのまとりてぶ
ぶりうるわざとも

時雨ふる五月のうるはしき
とまとをかしかるもあひていきるもとく
さいらをとりしたりぬ雨ふるるわ人とひと
みとり
さいとりうるはしきをあてやきいるく
かるとのまちとしいへ物をふたつ二十ばかりひとそをいまこの字と
るるてしてなむりとりて中てよりとせひるきうる紙
ちすきしげなのこと〳〵沈歌

花のこと思ふすみをもも覚ねての枝のもの〳〵きくも
このまるのうわきうるへ〳〵

心とあるまとりはいへとうるうまとまけはして
さいらはいひてそ自とたらひしてはなる秘曲の
事をとみをとるとうるはしひるうまきの
ものなりぬまをの心すわうるはけとは毎きと一事
しるぬるすわなすはまとはるとやうるの
事をうしはいうくさきあるなる毎〳〵
こと紙をかせるしとはいふきるを後ひ
是をすわとはいふ人をの用いつきと月のうるといひ
しるもとをもちとはいへとうるはあり
まるのこをとの河雲をふるうるはいに紙
ちうるを毎をまるうるはいふ〳〵一に紙
ちうるをまるうるはいふ〳〵きまにおるとも
緑のまるとをとのけすとを六帯とをの〳〵海うてとをとをもうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

我ら[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]て苗代水の[illegible]
[illegible]
[illegible]

も　時雨の比五月のみぞれ　ぬまぶの水　しるのつぼ
庫矣　ぶりもと　白のとり　おおばつまぶ　うの花　ぶとも
こととぶとぶきこ　ぶきこ　ぶとい　ぶ
よ　春日のとぶ　白のぶもも　出てぶ　ぶいぶ　ぶいぶ　ぶあって　若菜摘ん
よ　ぶぶまって　ぶぬ人　ぶ藤の　梅の花　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
遍照素性　ぶの文字　ぶ白の　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
の　ぶの花　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
の　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
中の　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
いぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
友則　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
み　春の　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
みぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
西傳　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ

[illegible]

一

[illegible]

一

[illegible]

一

[illegible]

一

岸樹八姫の二の一同風燭、同句二四同浪船、松八五言の句
四五七言の六同落花、毎句同初よ二三と一同とをきみ
の代のきいまのりきるとをきりて代のをしさうま
りきのきと同一事に同句二四同とをさみのうのと

一

なとをしさうとみとをしみのうのをこの六句
とをしさみの代のひさうきみのをこ毎句同よをし
句ごとの同じうのみ
八病と云八同心乾恩櫛蝶渚鴛花橘苔楓中鈍飽後悔
ちうわ

一

同心とをしかうわをしさうる
あるかねばうなきちきるみきこのをこ
なきはとをもうこをれ
乾恩とを中のうちの百句の姫の一中の同じうる
御さかるかるかるをしさ
こをしさのこのうをこ
櫛蝶八姫の五文字のそその一中句のうをの一中同じ

一　諸詩第三句はじめの一字第四句の末の一字なり　きく
　　ひとつ　ひとつ　山路　ひさぎ　ものもの　ひさぎ　みよし
一　花橘を名物の題とよみかくべきこと
　　ゆめ　ゆめ　いきて　ものもの　ひとつ　むかし　ひとつ
　　ひとつ　ひとつ　ひとつ　ひとつ　ひとつ　ひとつ　ひとつ
　　ひとつ　ひとつ　ひとつ　ひとつ　ひとつ　ひとつ　ひとつ
一　老梅を題とよみかくべきこと
　　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
　　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
　　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

一　中院殿の中の院ゆゑ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
　　なにとかいふるわ
一　法橋　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
　　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
　　八病　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
　　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
一　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
　　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ
　　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ　ゆめ

[illegible]

[illegible]

五月十九日の書状[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

長月十六日の月を待る[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大さ宗のおくさるのこゝろの八重葛八重
重なるあやまりのとこゝろの書始
のうらうるわ（悦）ん（歌）かといふるこゝろの歌を譬喩といひ河竹と
いふ文やまにいはもしぬ竹の病ひ平とさるこゝろ八龍眼
ゝこゝろこゝろ竹ゝ竹ゝ竹ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なりしとぞさしたる者なりとぞ
いふも短冊とりもてる事は
をはりもてそ綴るひとたび
千尋のものるれとえずに
思へる短冊といひゆるん
事いる細行る事はるこ三代の御門の御時さいこと
るものをうわ事はるれいる花は短冊に注本二冊と
作者をるなわいつまのあ文字よりわとんともあるは
ある注本二冊るわてどもまるなわまるの歌よりも短
ま十をとこのいひをきてをる御時
歌の五文字とかきあつめ
宮につくるなるうわされをまこ

なるほゆへふ長歌といふもむ
いわ同じるるこ一首誠をくけ長歌短冊さ
いつ綴るも神とをこ者をこ同じ
ものをめよ去るる侍る

短冊

あきはぎ　あれ　清さ　みあうらに　と海てすみ
いせのあま　ぬ　深る　ら　地して　よ
かるもの　なこの　る　ら　れるは　ら
ものを　秋　ま　と　ものを　ら
わ　る　ま　ま　ものを　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま　ま　ま　ま　ま

[illegible]

ある句を

二句を[illegible]

[illegible]

[illegible]

旋頭句とゝ[illegible]例ゝ三十一字の中に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

拾遺

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

混本句とゝ[illegible]例ゝ三十一字の中にいま句とよは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こんなふうの七つやよとうの
七文字の句のなきるわ
（きるわ）

一

折句の歌としてよめるやまあるものの名をあるものの名のうちよりて
よめる　小野小町

いとの名ちさきはあるとかりよやとてよめる
ものの名ちさきはあるとかりよやとてよめる
ものの名ちさきはあるとかりよやとてよめる

琴の琴（とりて五文字と今のうちをきくやうに琴をよむ）
琴の琴（とりて五文字と今のうちをきくやうに琴をよむ）

一

皆冠の折句の歌としてよめる

あしたもたてばきゆるねてとひきおくさ
ゆ清きみちをねてとひきおくさ
そもそもただ和の市にうりまゆ清きみちをねてとひきおくさ

一

そもそもの世をもたてるこの人のゆくえをいとゆ
くるはさるものなるものをもしらせてあれ沼をちるもに
あれ世をもたてるこの人のゆくえをいとゆ
あるものをもたてるこの人のゆくえをいとゆ

演情　師恩

一

ものをもたてるこの人のゆくえをいとゆ
ものをもたてるこの人のゆくえをいとゆ

一

皆冠の一字をもたてるこの人のゆくえをいとゆ
の字八をもたてるこの人のゆくえをいとゆ
和ぶもしらぬものの
ちらちのうちにはゆるゆるもはやまるものの難のおうち
里里人をもたてるこの人のゆくえをいとゆ
風雅の師の御恩をもたてるこの人のゆくえをいとゆ

き　きいかまと　ゆめとる（ゆふ　ぼたてたかうしたうもれ
ろ　ろいとみるとも　ちてぬ　ゆ　ゆ　ゆ

一　畳句とは
　　心とゝまるゝ所なくして
　　謡ひとなる
一　謡ひとは
　　結の世にまれなる女郎
一　物言はぬ
　　くまひとはなるもの
　　さまあるの
　　るもの
　　なるもの
　　ことはとて
　　いふ小歌小町
　　清住師の説法
　　清行の
　　歌行
　　業平の
　　とゝまる
　　貫之
　　とある
　　すさまじ
　　ぬるの
　　ぬるの
　　ぬるの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てふりぬへ〜業平ハ涙をながしてとうむ
古今をとりて見るに昔一の大きなる事ハ
もしらるるものあるもあり
あんけ中にこの物語一ふしとなふとて
おのれと元とらぬも
詞をえらびて心をとりてものとうくるいわ
ふせいをかくてふすれハ
とりてものとうるとして
月ハ春の物とよ
ひさしあるハ月ハ
わうあるハ物さきにて
いとことはしてとき
なれかくるひ
ハ
ハ
ハ

みてる山の井のといへるハ

ひとすじの石ゐをせきとめ岩を堰かすもるゝし

とゝ[illegible]ゝとゝまわまいみゝ山と云うもかゝの形水ようも

かゝゝゝ世川ありて行めまいてゝいとゝゝゝ

みゝ人九のゝわ岩屋のゝゝ云ふとゝゝゝ古ゝ衣

ゝゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

おゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よく〳〵思惟をめぐらしきみの法運の衰微を歎き
給ふとも他の世のうらめしきは陸奥とかやの
うちの中に生をあらそふわ[illegible]忠峯の樵夫[illegible]
ふ縁をたづねられ

白雲の杉のあるふるさとにつゆのこゝろやらかまくらの
とゝみて伝るよりこのかた堀川院の内侍長忠の
頌[illegible]をけるに文後時書とかゝるのとかゝわ
ゆゑ[illegible]彼の頌の後に徳[illegible]て前[illegible]
のを合ふ神宮の[illegible]
[illegible]
孝言の出[illegible]月海隠とかゝるもあり[illegible]
[illegible]

堀川院自毋
[illegible]

[illegible]
の女御の[illegible]永成法師の[illegible]

きみの代をすゑの松ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

眼 揺ちらさいこよりうるわしき白雲
耳 竹のうくとうれしせる富士の
鼻 高きはしらの高きこのあるはいとせるまに
舌 あわてそ合まの明の花をうるあるまを松ふる
身 わしぬ家を浮世の秋とうてきをあるいるとを思ふ
意 なき名をとへるひとをぬ心のとていうもと（茶
是まこと三千歳よりて去る法をうたうとうと法
和尚我朝の風俗をしたる神仏信宮をとを奉じ神き
賜のとをつのめるてもてまも心あるをいらしるまを
らんも然に天智天皇世小法をみるまをたるまて能和國
こを教朝食をいて和の山は法に行るまの屋を遠ておを
まをしるとは屋をいて光を示みて遠方をわ大嘗会の

時黒木の屋をて小殿を奇場おのはる殿の例迦
氏をわつ〜さを宮造も絵約する屋ををいるも
唐堯の宮太のを〜をもをらひの形をきをまを
ひるをなわさをかは本屋なを風心を殿ひれ八八
るを人をるを〜を為楽をを去をわさをこの為 清水
ひる

朝をを鬼屋ふわ居を為楽をを行をたかこを
天智天皇の神分るひまを民をもきをあをうひ
うめをるをるをるわをしを國の風俗をも撰さをあ
まをる時延喜帝かをの為ををををらまひるる
ひををらまをををこのをもをの時をを（らまををを
朝食をををて神を変秘曲を大をを神の道をを賢王

めてあるが、諸の道ともいひて、武人云、文
ふみ人云、とるものの法のことを不ゝ嫌人云
ものきりのことを不ゝ嫌人云
ものいひなどのたりあるものとなる
海行かばみづくかばねとなる
なぜ故ふねのもとなすとなり
あまも車とつくるこころなるべし
まことの人ととてもあるべし
まことのみちにもとまることなり
ぬるあまに我のこうのしらぬ
とかの嫌とみるべきこころ
豊とも色にいづるものなれば
こころとしてあるべきこころ
まことの一度解あまにとて
わりき罪るおこるべきこと
ゝなりしこころ色にいづる
讒言とは賢獣を分ち

一時のあやまりなるべし
まんや、鄭と文とのこころ
みくしとるべきのまことなるこころ
ちくるべし但こころ
色といふものとなる
世の故を信人朝よあまに忠
のこるべきこころ孔子墨翟云
孔墨のこころ
不忠の輩に
不見るものとゆ
まことにものとなる
仕とも好ひつゝ侍
ゝ侍

一　大こう行まいも名を得こる人ふたりこの故のかつ
あれども人の思ひゆるもとのつしてよみ
侍ると名をとりぬまいかの国のあるなもやまとたつたん
いそとの人よりもまさるべきに縁をとりて人ぬるわ心操も
祈るわれ力強もまりてよきいひあるべしぬまと
少この先ひまとりて世よりも人をもかるる源ありひのもち
るる思ふ歌多ひりてきいかに少禍ありといへども不孝世尊
ひとりるのことし詩句のたとへまとまとまとし

楚思湘花雲水冷　南聲清晩管絃秋

此詩八頃声聞まりて雅もとる人あるとれも秀句なる
にしりて西條大納言公任卿朗詠集撰入らまきわまき長元
八年三十講の会ふ

一　あまりて世あて命ひりてれたるひまを人の命ありけまと
きれのとまを三ありまとりもとりまりて勝よりわ国とりの病
るれとりるりるりるりるりるりるやへのり紙
見まりて以ふ

一　ひとり帝ひとりへ優るへ定子皇后に入条院の后へ
中宮白道隆の御女なり彼后少るやとりるせるひる
夜とりに奏りとりわりすりひむりの色り春き
とりきりて御きりまりの色りふりふむりとりひりりるせる
ひて後院ひりへん院ひりまりまりま

あるとき、[illegible]時雨の一声ほのぼのと
鳴てるると後頼一そ詠せまゐらせ
の中に出のひるる市にて淀の[illegible]女房の子詠
出[illegible]けるのくそめて[illegible]
拾遺ゞ生忠見いつるよ[illegible]
[illegible]
わとれなあ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
とゝ[illegible]ふ心なりしが女房は天暦の御時梨壺の人の家の
中に清涼元服の女御[illegible]
源氏物語[illegible]
[illegible]
[illegible]侍し[illegible]
[illegible]
[illegible]香爐峯の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]侍り香爐峯の雪[illegible]
[illegible]の[illegible]

此鐘撞[illegible]
[illegible]香爐峯の雪簾を[illegible]
[illegible]
[illegible]

冠黄伴蔭栗とあるこゝにこゝさう事はるる名と
見えていとゝあるべしこれ日本の古事なり
とひくるまでして漢古事とて魏の文帝の
いつくしみたまふ栗とも栗とも
栗とうのあやまりなるべしこれ世すもの
よ忘れわすれいとゝ世すもの
質前玉蔭栗魏文帝書王書称栗黄伴蔭栗 前府卷十八
とゝて前の判ゝ
世すも意世ゝ
後頼十徳なりこれ人
かまいうや源中納言
ちわゝとゝ
つゝるもの
世の見のもるゝ

十徳といふもいとのもの事なり
用ひあるこゝ
前人ゝ
大殿御時白川院宮御
さゝもてい五日
ゝ
あるゝ
めゝ御殿下出遊限
宮御ゝ都の南
ゝ
らむゝ

京極

日野殿の記にあり。殿下御感ありし時、とりて
言葉をかけ給へる人、あまたあるべし。
事にふれ、うつくしき人、かなしかるべ
かなれども、中ごろ、呉ひめ、ひめ
なれども、あなの文、えもいはぬ
ものなり。

大中臣能宣、頼基、親王村上第四親王也、為平親王也、の御子日ふかき
て、侍りしと、頼基、いつる侍りきと、問きし、
千とせをかさねる松も、ものいはず、万代を経む
世をもしらしとや思ひし。頼基、云ふ、
枕をとりて、能宣を、打て云ふ、
て、主上の御子日なりとあり。はいかゝる、
わさとなのつかぬ人、
子の日よりむすびやあ
ふきて云ふ、
出たるも、打ちのの
天徳の内合、博雅三位講師にとむらひ
宮をとりあつめ、
なるよし、彼時の記ふ見えたり。
のまき、
大二條殿大将、
うの姫、
女房の心、
とあまりて、
わかたちの、
ものかたりの
ふきて云ふ、
出たるも、
天徳の内合、博雅三位講師にとむらひ
宮をとりあつめ、
なるよし、彼時の記ふ見えたり。
のまき、
大二條殿大将、
うの姫、
女房の心、
とあまりて、

きうせ法ひ[illegible]みう[illegible]せ法ひけ[illegible]ふ[illegible]ま
ら法のつよ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]と[illegible]て[illegible]わ[illegible]ま[illegible]て[illegible]
ゆきうとう時の人[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]と白川院方れ法方武忠ゆてあ
ゆしけなれ隨分ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
まいせんとう[illegible]ゆ[illegible]
るうんはよ人[illegible]と[illegible]
法親王能俊八白川院方祇園の[illegible]月は中
なう[illegible]と[illegible]
きたるゆ[illegible]と大相國宰相[illegible]
河内[illegible]月と後頼光をいさ[illegible]
つ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]の月を出[illegible]

ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]の月八出[illegible]侍[illegible]秋
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]八後頼の[illegible]
る[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ入[illegible]ゆ[illegible]ゆ後頼[illegible]
ら[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]
ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]

かくてあるあひだ、源和尚のうぶすなにいはせ
まうさるるとて、[illegible]
源和尚を聚へ、源とはいふ優婆塞
まうして、[illegible]
[illegible]
つかまつりて、[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

之撰故為末代嬰児級此一卷大綱深淺不可
出之夫和哥者全不依教訓已心詠之雖然不
存此趣者有諸病之科為除其科撰之者也
深悔心底不可及他見穴賢々々

大宮右大臣俊家卿子也
左衛門佐基俊在判

師匠の秘書一巻をつくりてわかい法
名をそなへ林家人名をそなへ
もきらせたるくはの歌をかきて授書
あるまじいあるうこと

五條三位後成卿
八道輝行左判

年はあさうしの心さしのいとをかしけ
いき家の人のすき者の世をとり
ふてまつりもる一人のかるゆるをもす
くはの家の秘書切紙をとりに
ぬき流きをとりもとりの作まくは在
玉津島の利生をとりをとりてあるこ
拙者うく秘し切紙

後成二安二の花第之系花御示
者系基女左判

此秘書は子孫にゆるすまくはとも
一子のきゆゑ者をとりてかまくる
まつるをとりらんせんあひ切紙

出ることなく法華経をとくひきうとあるむかし
便宜のことなりいもうとのきょうしゃしゃ
ときは弥陀をあがめうやまうて西方にあるる
かしこし〳〵

〈安五年三月廿九日　妙阿　左判
此御書をお作せんとて銀作をかきて
御〳〵人々書写せ西方浄土へ
　　武　左判

右御書拙僧案ずるに石子入道殿
せんまい千頼一万頼の深のことなりて土を
ぬりせんまい一入再入のおもわるる

しるし愚量ありて一字より一万字にて次
人〳〵にてはべりけるを給はりしめしあり
なり次より家をもちて千人をあるひて順逆
長者如来をもしめまひ半偈をおもて雪山童子
命身を捨ることもいとうるむよいはとしつ
ものの人をつくりて行者の法華経
人々をおのの人殊下恩報ずる意ありしを
報じ今生ようにもつかうの公験より
よい後生をまいて必いとしの公験はおちは
ためぬ伝説法文こしたり件
尚書お作御書紙不作ゆえ也雖に書写恵恵
書進ら〳〵早世〳〵奥文和光説ら已

正安元年二月十七日　為大納言為世卿

右以教本注之校合了審於弱冠之年遂之尊證
本之仮名書無一字之違乎急徒然之間
天文十七年極月廿七日書之　為和上判

右雅言集字数多少本合校合了年
天文十八年八月十三日　卅三位

于時寛永元甲申仲夏入梅前之　阿波黄門

于時文化十有一年歳在甲戌夏四月明徳院
法印因證本書写了

安達邦興記